

山形県最上地域における特用林産振興の取組み

山形県最上総合支庁森林整備課 専門林業普及指導員 井上 浩

1 はじめに

山形県最上地域は、年平均の降水量が県内4地域の中で最も多く、積雪寒冷な自然環境と豊かな森林資源が存在している。また、山菜、きのこを主体とした特用林産物の生産が盛んな地域で、きのこの生産が県全体の約7割を占めるなど、人々の食文化を育み、山村地域の暮らしの源泉のひとつになっている。

一方、きのこの生産量は、生産者の高齢化に加え、東日本大震災による風評や大型企業との競争など、平成22年の約8,000tをピークに減少傾向になってきた。

このことから、特用林産物の生産振興と産地強化を図るため、関係者と連携し取組みを推進している。



2 取組みの方法

最上地域の特用林産振興は、「生産」と「消費」の視点で対策を実施している。

(1) 山菜、きのこの栽培技術の普及啓発

- ① スギ林の有効活用と山菜栽培の研修
- ② 地元産天然ナメコを利用した原木栽培の研修



(2) きのこの高品質、安定生産に向けた生産技術の向上

- ① きのこ生産工程管理の研修
- ② 栽培きのこの害菌対策の研修
- ③ 生産者、関係団体、行政等による産地強化の検討



(3) 山菜、きのこ消費拡大の促進

- ① 山菜、きのこの宣伝活動
- ② きのこと料理の開発と料理レシピの配布
- ③ きのこと需要に関する意識調査



3 取組みの結果

(1) 山菜、きのこの栽培技術の普及啓発

森林所有者に、山菜、きのこの栽培研修を通して、造林地における下刈り省力化の提案や、栽培方法を普及することができた。また、所有者が、山菜を栽培することにより、新たな収入源として検討していく機会になった。

(2) きのこと高品質、安定生産に向けた生産技術の向上

生産者に、食の安全や品質管理に対する理解が深まり、きのこの GAP 認証取得の取組みにつながった。また、関係者相互の意識の共有が図られた。

(3) 山菜、きのこ消費拡大の促進

消費者に、山菜、きのこの魅力を広く発信することができた。

4 考察

最上地域の特産林産物は、地域特有の風土と、恵まれた自然環境の中、自然の恵みとして利用され、山村の振興に大きな役割を果たしている。

このため、特産林産物の振興は、既存の生産力の向上を図るとともに、新たな担い手となる人材を育成し、生産基盤を拡げていくことが必要である。また、生産体制を構築する上で、消費者ニーズに応じていくことが不可欠である。

更に強い産地の確立を目指し、継続的な取組みを通して、森林所有者の所得向上、山村地域の活性化、地域産業の振興や雇用創出などが期待される。

